

【京都総評第71回臨時大会 大会宣言案】

10春闘勝利、知事選勝利へすべての皆さんの総決起を呼びかけます！

私たちは、本日、「新しい情勢を力に！——憲法が暮らしに生かされる政治と経済の実現を！」「労働者の生活と雇用、京都地域経済を主役に！——なくそう！格差と貧困。大企業は社会的責任を果たせ！」「労働組合の出番！組織を強く大きく！」のスローガンを掲げ、10春闘勝利、知事選勝利へ総決起することを確認しました。

世界を覆った経済危機のもとで、日本の財界・大企業は、労働者と下請けの中小企業・地域経済を犠牲に、自らの利益を蓄積し続けています。1月19日、日本経団連は、経営労働政策委員会報告（経労委報告）で「賃金より雇用」などと述べ、これまでの雇用破壊に加え、賃下げをすすめ、ひとり国際競争に勝ち抜くことを宣言しました。また、政治に対して、最賃改善に反対し、派遣労働などの温存を求めるとともに、税負担の軽減と消費税導入、社会保障改悪などを求め、労働者・国民を犠牲にして富を独り占めし、いっそうの貧困と格差を深刻化させようとしています。

昨年の総選挙で国民は、「小泉構造改革」以来の自公政治に対し、明確に「NO」の審判を下し、政治の転換を求めました。鳩山政権は、国民の世論の力に押されていくつかの施策を実現してきていますが、しかし、「アメリカ追従、安保条約体制固執」「財界・大企業中心の経済」という根本課題を抱えたまま、右往左往しており、加えて、政治と金の問題が露呈しています。

まさに、10春闘は、労働者派遣法抜本改正、最賃時給1000円を掲げ、「構造改革」路線から脱却し、大企業に社会的責任を果たさせ、政治の力でルールある経済社会をつくり出す正念場のたたかいです。同時に、安保50年の節目の年に、安保条約廃棄をかけ、沖縄県民に連帯し、基地のない日本、核兵器廃絶と憲法改悪阻止をめざすたたかいです。そして、4月11日投票の府知事選で、労働者・府民こそ主人公の府政を実現するたたかいです。小泉政権とともに誕生し、「構造改革路線」の京都版をすすめてきた現府政では、労働者の雇用も暮らしも、府民の命も守れません。国の政治を転換させた世論と運動の力で、今度は京都府政を転換するチャンスです。

すべての組合員の皆さん。

賃上げ要求を掲げ、雇用と地域経済を守るために、10春闘勝利をめざして総決起されることを呼びかけます。

そして、「門ゆうすけさんとともに、ひと・いのち、雇用と営業を守る京都府政の実現を！」を掲げ、府政転換へ総力をあげようではありませんか。

以上、宣言します。

2010年1月23日

京都総評第71回臨時大会